

SEDIA SMILE BOOK vol.10

セディア
スマイルブック

【渡辺パイプCSRアクティブレポート】

地域の
チカラ。

技術と共に。地域と共に。

SEDIA SMILE BOOK vol.10 2016年3月25日発行 発行:渡辺パイプ株式会社 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10 浜離宮パークサイドプレイス6F

もっと、ずっと、
水から未来を考える。
セディア財団です。

MizuMirai

水から学んだこと。自然から学んだこと。未来にとって大切なこと。
「MizuMirai」はセディア財団の活動報告書であると共に、水と自然から
元気で快適な未来のより良い方向をいっしょに考える冊子です。



全国小学生かべ新聞コンテスト

セディア財団は「わたしたちのくらしと水」をテーマに、全国の小学生を対
象としたかべ新聞コンテストを開催しています。第1回のコンテストには全
国から4,340作品もの応募がありました。



Smile
SEDIA ESTABLISHED IN 1993
SEDIA SMILE
PROJECT
次へ。

働く人の笑顔。それに支えら
れて、日々平穏に暮らす人た
ちの笑顔。安心な世の中だか
らこそ、笑顔が生まれる。日々
の仕事、さまざまな活動を通じ
て、笑顔の輪をもっと大きく広
げていきます。

水・住まい・農業の明日へ。そこにセディアシステム
渡辺パイプ株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10
浜離宮パークサイドプレイス6F
TEL.03-3549-3111 FAX.03-5565-6374
URL.http://www.sedia-system.co.jp

地域のチカラ。

人の身体が細胞やいろいろな部位からできているように、日本もさまざまな地域から成り立っています。つまり日本の元気も発展も、すべては地域から始まると言えないでしょうか。お客さまやメーカーさまなど、渡辺パイプのステークホルダーのみなさまは、日本全国にいらして、その地域ならではの、その地域を元気にする取り組みを行っています。今回のスマイルブックでは「地域のチカラ」をテーマに、元気がいっぱい、可能性がいっぱいの取り組みや活動を追ってみました。ひたむきに打ち込む姿の向こうに、明日の笑顔が見えてきます。

巻頭特集 | 地域の未来づくり

- 豊岡。コウノトリ野生復帰プロジェクト P4
- 大町。小水力発電プロジェクト P6
- 香川。創水プロジェクト P7

第1章 つなぐ。つなげる。

- 122 連携が生み出す強さ。
日新製鋼株式会社
株式会社新三興鋼管 P10
- 123 絆を、チカラに。
株式会社高田屋 P12
- 124 地域の足を止めるな。
株式会社ネッツ P14
- 125 一手間を惜しむな。
株式会社あらい建設 P16
- 126 あえて、悪条件に挑む。
株式会社フレボファーム P18

第2章 未来は、地域から。

- 127 感謝が原動力。
株式会社ジーシーアイ P22
- 128 日本一で人を呼ぶ。
株式会社あるペン村 P24
- 129 原点を見つめつづける。
株式会社万建設興業 P26
- 130 知識を、知恵に。
入交電設株式会社 P28

第3章 安全・安心こそ、地域の財産。

- 131 個々に応える。
前澤給装工業株式会社 P32
- 132 活躍できる場は必ずある。
株式会社ノーリツ P34
- 133 天の邪鬼でいく。
埼玉県本庄市鹿田さん P36
- 134 隠す理由は何もない。
株式会社ブリヂストン P38

セディア CSR ストーリー P40

「セディアスマイルブック」の記事、
写真の無断転載は一切お断りいたします。



地域の未来。

豊岡、大町、香川、水から始まる取り組み。



水への取り組みは、
未来への取り組みでした。

日本各地で、水をめぐる取り組みが行われています。

特徴的なのは、どれもが気候や風土など、

地域性を活かした取り組みであること。

そしてその取り組みが、暮らしの未来づくりにつながっているということ。

水の未来を考えることは、

人や地域の未来を考えることなのですね。

そこで今回のスマイルブックでは、「地域の未来づくり」と題して、

渡辺パイプのサービスセンターの所長に、

その地域ならではの水をめぐる取り組みを紹介してもらいました。



豊岡



大町



香川

「コウノトリは里の生態系の頂点に立つ肉食の鳥なのです」と教えてくれるのは、兵庫県の城崎温泉の近くにある豊岡サービスセンターの谷原所長。「山からのきれいな水が流れる湿地では、豊富な水草や植物プランクトン、水生昆虫や動物プランクトンが育まれます。それをエサにカエルやメダカやドジョウが生殖します。コウノトリはそれを食べて生きていきます。しかし戦後の圃場整備、河川の改修、農薬の使用などによって生態系は大きく変化。田んぼからカエルやメダカやドジョウが消滅するとコウノトリも絶滅してしまったのです。1971年のことです」

ゆっくり翼を広げて大空を舞うコウノトリ。地上では田んぼのフナやドジョウをついばみ、その傍らには農業を営む人々。50年ほど前までの当たり前だった風景がなくなって悲しんだのは、実は農家の人だったと谷原所長は言う。「コウノトリも住めないような環境で自分たちは営農し、暮らしているのかと気づいたのです。そんな折、2008年、ロシアから1羽のコウノトリが豊岡にやってきたのです。昔のような環境に戻ればコウノトリも豊岡へ住み着いてくれる。コウノトリが住む町にしよう、農家を中心にそんな声があがったのです」

その声に行政も応え、官民がひとつになってコウノトリを育て、やがて野生に戻そうというプロジェクトが始まった。「灌水を再整備する。できるだけ長期間、田んぼに水を張る。有機栽培にする、あるいは農薬の使用は必要最小限にする。また、行政でもコウノトリの飼育に取り組む。町をあげての地道な取り組みのおかげで、今では野生のコウノトリが78羽、コウノトリの郷で人工飼育されているコウノトリが96羽にも増えたのです」

そしてこの取り組みは、町にもうひとつの幸せを運んできた。谷原所長は言う。「豊岡では『コウノトリ育む農法』が定着。その田畑で作られた米や野菜が、おいしい、身体に良いと全国で評判になったのです。少々値段は高いのですが、それでも欲しいという方が増えて、豊岡のブランド米、ブランド野菜になり、農家に思わぬ販路が広がったのです。するとこの『コウノトリ育む農法』を採用する農家が急増。2003年にはたった0.7haだった栽培面積が、2015年には300haを超えました。10年ちょっとで約300倍！町にとっても幸せを呼ぶ取り組みとなったのです」



豊岡。

コウノトリ野生復帰プロジェクト

コウノトリを育むことが
教えてくれること。



① 豊岡市には人工巣塔が数カ所に設置されている。高さ11m～13m、その上部に、直径約1.6mの鋼製の巣台が取り付けられているものが主流で、円台の上には木の枝や藁などの巣材が敷き詰められている。② 兵庫県立コウノトリの郷公園では、約100羽のコウノトリが育てられている。③ 豊岡市にはコウノトリが住み着くようにさまざまな取り組みが行われている。湿地の整備もそのひとつ。④ 豊岡市立コウノトリ文化館の高橋副館長から説明を聞く、豊岡サービスセンターの谷原所長。⑤ コウノトリは極東地区で2,000羽余りしか生息していない絶滅危惧種でもある。⑥ 豊岡市にはいたるところで「コウノトリ育む農法」を実践している田んぼがある。

ブランド米となった 豊岡の栽培技術「コウノトリ育む農法」。

おいしいお米と多様な生き物を育み、コウノトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりをめざすために下記を遵守した農法で栽培している。

- 1) 農薬の不使用、または7.5割削減。
- 2) 化学肥料の栽培期間中不使用。
- 3) 温湯消毒(種もみをお湯で消毒する)。
- 4) 中干し延期(オタマジャクシがカエルになるまで田んぼの水を残す)。
- 5) 生産者による生き物調査。
- 6) 早期湛水(田植えの1ヵ月前から田んぼに水を張る)。
冬期湛水(冬のあいだ田んぼに水を張る)。
- 7) 深水管理(田んぼに深く水を張る)など。



大町。

小水力発電プロジェクト



町の水で、町の電気を。



「雄大な北アルプスの山並みが見渡せる長野県大町市。この町はアルプスの清らかで豊富な水の恩恵を受け、農業や観光、さらには水力を利用した製造業などが発展してきました。小水力発電の取り組みもそのひとつです」と教えてくれるのは、あずみのサービスセンターの吉田所長。国道沿いに建つ発電所は、小という文字がつくようにとてもコンパクトなもの。しかし近くに大きな川もないのでどのように発電しているのかと疑問に思っていると、「大町では、アルプスから流れ出る川の水が、網の目のような大小の水路となつてめぐっています。その水路のひとつ、町川用水を利用しているのがこの小水力発電所です」と吉田所長。

施設の規模について聞いた。「最大取水量毎秒1.1m³、管路延長83.7m、有効落差16.2m。横軸フランシス水車と三相誘導発電機により、最大140KWhを発電します。そして、発電量の約7割を市の施設で使用。稼働しない休日と夜間は、余剰電力を中部電力へ売電しています。いわば電力版、地産地消の理想形です」と吉田所長。想定外のコンパクトさ、電力の地産地消。その取り組みは全国の自治体に大きなインパクトを与えたようで、始動して約4年もたつのに、全国からの見学者が絶えないという。

「高松は水への意識が高い地域かもしれません」と教えてくれるのは、高松サービスセンターの平尾所長。自然による降水はどうにもできないけれど、雨水や河川の水を飲料水にすることは可能だ。「高松市上下水道工業協同組合が誕生60周年を記念して、万が一の災害時に役立つものを作って市民に役立ててもらおうと製作したのが『緊急浄水器・創水たまてばこ』です」と平尾所長。

製作を担当したのは浦川設備興業。渡辺パイプのお客さまで、製作の際には配管などを納品したという。年が明けた1月の中旬、坂出の綾川浄水場で、市民や小学生を招いた震災対策訓練が行われ、そのなかで「創水たまてばこ」のデモンストレーションがあるというので平尾所長と伺った。「この浄水器は弊社の水処理技術をベースに開発しました。川や池の水を中空糸(MF)膜と逆浸透(RO)膜でろ過することで安全な飲み水にします。処理能力は1分間に3.2ℓ。1時間でお風呂1杯分です」と説明してくれるのは浦川さん。万が一のときに役立つ、町の財産になればとの願いを込めて作ったという。この「創水たまてばこ」、普段は高松市の御殿浄水場に設置されているという。



① 浦川設備興業の美濃さんから「創水たまてばこ」の浄水の仕組みについてレクチャーを受ける、高松サービスセンターの平尾所長。
② 実際に味わってみませんか？と浄水した水をふるまってくれた。
③ 綾川浄水場で開かれた震災対策訓練には近隣の小学校の生徒も参加した。
④ 震災対策訓練当日、「創水たまてばこ」のデモンストレーションにはたくさんの参加者が集まった。

香川。

創水プロジェクト



万が一のとき、町に水を。

第1章
the first chapter

つなぐ。 つなげる。

リレーのバトンをわたすように、
そこに明確な志と意志がなければ次へ届けることはできない。
人から人へ、時代から次代へ、
この技術で、この仕事で、この製品で。
つなぐところに笑顔は生まれる。



OVER

SEDIA
SMILE
BOOK vol.10

122

SEDIA SMILE STORY
日新製鋼株式会社

連携が

生み出す 強さ。

株式会社新三興鋼管



3社の知恵と技術が常識を超える強いパイプを生み出した。



台風、大雪、突風など、最近の日本は毎年のように自然の災害に見舞われて、グリーンハウスにも強度が求められる時代になってきた。「強度があって、耐久性があって、加工性にも優れたパイプを作りたい」という相談が渡辺パイプからあったとき、高張力を兼ね備えた『ZAM』が必要だと直感しました」と語るのは日新製鋼市川製造所の品質保証チームの三宅さん。「ZAM」とは日新製鋼が世界ではじめて工業生産化に成功した高耐食性の合金メッキ鋼板。マグネシウムとアルミニウムの効果により、優れた耐食性を発揮する。「渡辺パイプのパイプは、農作業の現場で使われます。通常、錆を防ぐには亜

鉛をたっぷり使うのですが、『ZAM』は少ない量ですみます。そのため環境にも農作物にもやさしい商品なのです」と三宅さん。かくして「ZAM」の個性を最大限に活かしながら、タフパイプ用の新たな特長を加えた原板が市川製造所で開発された。

日新製鋼株式会社
 ■住所:東京都千代田区丸の内3-4-1 ■電話:03-3216-5511
 ■創業:1908年7月 ■資本金:300億円
 ■代表者:代表取締役社長 三喜 俊典 ■従業員:4,128名
 ■事業内容:表面処理製品・ステンレス製品などの開発、製造、販売



日新製鋼で製造された原板は、新三興鋼管へ運ばれる。「素晴らしい原板ができあがれば、あとは加工です。これからの農業の期待に応えるパイプへいかに仕上げていくか、私たちの力量が問われる番でした」と話すのは取締役工場長の飯沢さん。その言葉にウツはなかった。新三興鋼管では5つの製造ラインの内、その2つをタフパイプ用として整備したという力の入れよう。その背景を聞いた。「私たちは農業の分野で、これほど高性能な技術が求められるとは思っていませんでした。しかし渡辺パイプから農家さまが少しでも安定して農作業を行うには強いグリーンハウスが不可欠という想い

を聞いたときは胸を打たれました。私たちの技術が役に立つのなら、ぜひとも開発をいっしょにしたいと思います」と飯沢さん。かくして3社の知恵と技術が1本のパイプとなった。強く加工力に優れたタフパイプ。全国各地の農家さまの安心の一役を担っていくことだろう。

株式会社新三興鋼管
 ■住所:千葉県市原市玉前西3-3 ■電話:0436-22-1625
 ■設立:1998年3月 ■資本金:3億円
 ■代表者:代表取締役社長 田中 真也 ■従業員:99名
 ■事業内容:一般構造用炭素鋼管、一般構造用角型鋼管、配管用炭素鋼管、機械構造用炭素鋼管、農業資材用鋼管などの開発、製造、販売

123

SEDIA SMILE STORY
株式会社高田屋

絆を、チカラに。

地元で育った会社だから、
地元からの依頼は何はさておき
取り組んでいく。



高田屋は神奈川県座間市で創業して60年以上。配管工事からスタートして、今では住設の工事も多く手がけている。「座間市は面白いところだね、座間の水道水は川の水ではなく、多くは地下水なのです。意外でしょ。そしてここ5、6年で、水道管の取り替えが本格化してきました。ポリエチレン管に取り替えるのです。市から依頼があれば断るわけにはいきません。この町で大きくしてもらった企業ですから」と代表取締役の木谷さんは笑う。

その取替工事を取材させていただくことになった。当日は今にも降り出しそうな空模様だった。朝の時点で雨は降っていなかったのですが木谷さんは予定通り行くことにした。しかし途中で雨になった。その後は降ったりやんだり。「こういう天候の日は判断がむずかしい。焦って早く終わらせようとするればミスのもと。確かにスケジュールは気になりますが、きちんとした仕事をするには中止する勇気も必要です」

ポリエチレン管を敷設する準備は前日に行っていた。中止となれば掘り起こした道路を再び埋めなければならない。しかし雨は強くなったり弱くなったりを繰り返した。強くなれば休止する。あがれば再び取りかかる。ベテランの社員がなんども空をながめては思案する。木谷さんは言う。「我々の手

間はどうでもいいのです。大切なのは住民の暮らし。断水をお願いしているのだから、できれば今日中に終わらせたい。しかし焦って融着に不具合があると漏水の原因になります。どっちを優先するかは判断はそのせめぎ合いです」

一瞬だが雨脚が弱まり、薄日が射してきた。木谷さんは「今だ」とゴーサインをだした。職員が手早く、しかし確実に融着作業を行った。予定した断水時間内で工事は終わった。みんなの作業着はびしょ濡れだったけれど、顔にはなんとかやり遂げた、充実した笑顔が広がっていた。



株式会社
高田屋
代表取締役
木谷 邦雄さん

「最近つくづく思うのは、我々のような水道工事店の仕事は、住民の暮らしに直結しているということ。だからこそ、効率は大事なかもしれないけれど、利益ばかりを追わないで、お金や時間を度外視してでも取り組まなければならないときもあるのです」

- 住所:神奈川県座間市さがみ野3-6-2
- 電話:046-251-9511
- 創業:1953年4月
- 資本金:2,000万円
- 代表者:代表取締役 木谷 邦雄
- 従業員:13名
- 事業内容:給排水衛生設備工事、土木工事全般、空調設備工事、管工事全般



NETZはJR西日本の受電設備や電気設備の工事を主に
行っている。代表取締役社長の濱口さんは言う。「鉄道は、
私たちの暮らしの基盤を支える重要なインフラ、ライフライン
のひとつです。だからこそ電車は絶対に止めてはなりません。
電車を安全・正確に運行させる保守や点検こそが私たち
の仕事。そのために一番大切なのは安全への取り組み
なのです」

安全は技術と意識から。それがNETZの安全対策の基本
だ。「我が社に技術資格保持者が多いのもそんな理由から。
その上で忘れてはならないのが、社員一人ひとりの日々
の安全への意識です。日々の安全確認に加え、工事中の
安全動作確認の徹底、さらに毎月第一月曜日、社内で安全会
議を行い、全国で起こった事故を議題にその原因と対策を
協議し合っています。他にも協力会社との安全会議も頻繁に
行っています」と濱口さん。安全への意識を高める取り組み
で面白い活動もある。社員から広く標語を求めて、それを日
めくりのカレンダーにして掲示しているのだ。「ささいな取り

組みかもしれませんが、日々の小さな積み重ねだけが大きな
安心を生み出せると思っています」と濱口さん。

工事取材は最終電車が発車したあとの、真夜中の駅
だった。工事は終電後から始発までが主だ。ヘルメットの明
かりを頼りに慎重に、しかし手早く工事を進める。印象的な
のは声をかけあうことが多い点だ。「指で確認し、声を出し
て確認する。自分で確認し、仲間と確認する。時間に制約
がある上、暗い現場が多いので、確認をしすぎるということ
はありません。私たちは、事故は起こるという意識を胸に抱
きながら工事へ向かいます。そして起こさないために技術と
意識を高めています。NETZ流の仕事術といえば格好つけ
すぎでしょうか」と澤田さんは笑顔で言った。



株式会社NETZ
代表取締役社長
濱口 日出夫さん

「横着をするな、近道をするな。それが一番早く、確実に
目的へたどりつける安全な道。それを社員全員が頭
でなく身体で理解する。そこではじめて安全な工事に
取り組めると思います」と濱口さん。NETZにとって安全
のための改善は終わらなき取り組みなのだ。

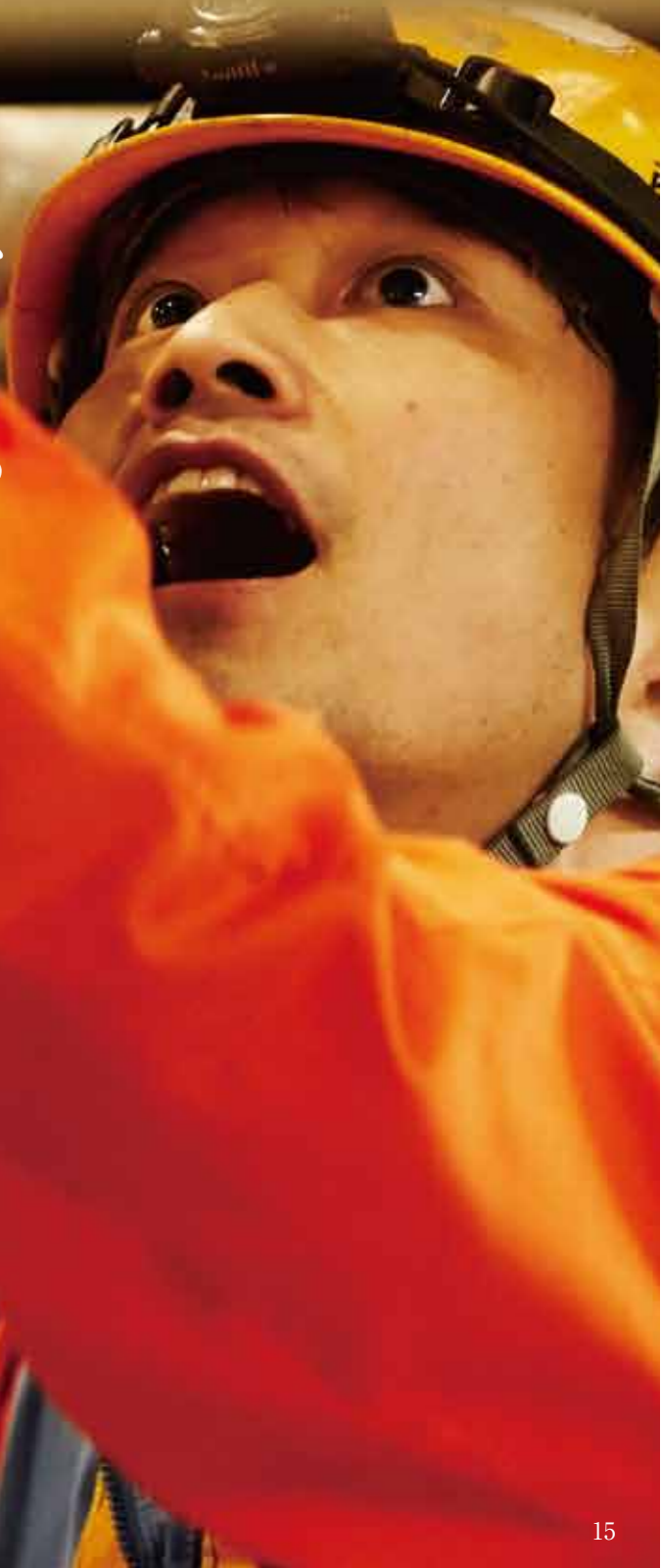
- 住所:大阪府大阪市淀川区三津屋南3-8-41
- 電話:06-6886-7820
- 設立:1995年10月
- 資本金:1,000万円
- 代表者:代表取締役社長 濱口 日出夫
- 従業員:39名
- 事業内容:電気設備の設計・施工・管理、消防施設の
設計・施工・管理、電気通信設備の設計・施工・管理、電気・
消防施設・通信設備の保守点検、建築工事一式、他

沿線の方への貢献となる。
改善に次ぐ改善が
支障をきたさない。
何があっても

地域の足を止めるな。

124

SEDIA SMILE STORY
株式会社NETZ





「私たちの事業の中心には、木と人があるのです」と笑顔で言うのは洗井さん。地元の方のみならず、日本中の設計士や施主から、本格的な木造住宅の施工はあらい建設で、厚い信頼が寄せられている会社の代表取締役会長だ。

あらい建設の特長は、なんといっても木の住まいの良さを次の世代へつなげる取り組みを行っている点だろう。岡山は杉・桧・松といった木材の産地。「地元で育った木を使う意義は、地産地消になるだけでなく、輸送時のCO₂排出量を減らすことにもつながると考えています」と洗井さん。また、外部の職人に頼らず自社社員で施工を行う企業は多いけれど、社員のなかに6人も大工の棟梁が在社しているところはめずらしい。「確かな仕事を行うためでもあるのです

が、それ以上に技の継承をしっかりしたいからです。道具をきっちりと使い、木の特性を見極めて家を造っていく技は教室では学べませんから」と洗井さん。

そして木にこだわる理由はそれだけではない。「木は正直な材料です。ごまかしがききません。つまり作り手の志や力量が問われる材質でもあるのです。我が社では社員に『一手間を惜しむな』と厳しく教えています。木の住まいの場合、数年もすればその一手間があるかないかが如実に表れてきます。木の住まいは高いと言われるけれど、手入れをしっかりとすれば何十年、何百年も持つのです。持たせるためには一手間を惜しまないことが大切。実はかつての日本の職人には当たり前のことであつたのですが、現代では効率が優先されるばかりでさみしい限り。だから廃れる前に日本の美德として次の世代へ伝えたいという想いもあります。いつの時代も作り手の質が住まいの質になるのですから」と洗井さんは力強く語った。



株式会社あらい建設
代表取締役会長 洗井 健一さん

岡山県立大学で非常勤講師を務めたり、岡山県建築士会の会長も務める洗井さん。「日本の住まいや和の住まいの良さを広く伝えたいから」と自社の会長業以外にも積極的に活動する理由をそう語る。

- 住所:岡山県岡山市中区江並79-20
- 電話:086-277-6121
- 創業:1957年11月
- 資本金:2,000万円
- 代表者:代表取締役会長 洗井 健一
- 従業員:24名
- 事業内容:木造住宅の設計・施工、鉄骨造・RC造などの店舗や賃貸物件の設計・施工、水廻りのリフォーム、他

惜しむな。一手間を

日本と地域のDNAを、
次の世代へ伝えていく。

125
SEDIA SMILE STORY
株式会社あらい建設



126

SEDIA SMILE STORY
株式会社フレボファーム

あえて、悪条件に挑む。

この成功は、地域のため、さらには日本のためになる。



世界に通用するホウレン草を作りたい。わらべや日洋の井上さんの想いに賛同したのが、ドットコムえいの栗原さん。「生産システムは私たちが担い、栽培に関しては福島の名人と呼ばれる農家さまにお願いし、さらに千葉大学にも相談して、栽培環境に応じたアドバイスやシステム実用化への助言をいただきました」

生産農家、生産システム開発、そして商品開発と販売のプロフェッショナルががっちり手を組んで誕生したのがフレボファーム。「私たちは独自のホウレン草生産システムで、低コストで安全・安心、かつ世界に通用する品質の良いホウレン草の生産をめざしています。作物だけでなく、ビジネスとして成功するモデルを作りたい。大規模運営できっちり利益のビジネス。将来的にはグリーンハウス240棟、栽培面積にし

て6haでホウレン草を年6回栽培します」と井上さんは展望を教えてください。

生産の拠点として選ばれたのは山梨県。ホウレン草栽培に関しては恵まれた土地ではないという。「ここは昔、河川だったようです。今でも土を掘ると石がゴロゴロでできます。それを取り除くことが栽培前の大仕事」と井上さんは笑う。しかしなぜそんな土地を選んだのだろうか。「このプロジェクトは新しい試みです。だから拠点もあえてこの地を選んだのです」と栗原さん。「山梨は果樹王国。でもここで薬物の栽培ができるとなればこの地域の貢献にもなります」と井上さんが付け加える。そんなお二人の背後では土を掘り、石を取り除く作業が行われている。あえて悪条件に挑む。しかしその成功が日本の農業を変えるかもしれない。挑戦する農家の姿がここにあった。



日本のホウレン草の生産量は約22万トンで世界第3位。しかし世界に出回っていない。だからこそ世界で通用するホウレン草を作る、そんな想いで結ばれたのがこの3人。左から栗原直貴さん、井上昌夫さん、そして農場長の笹川芳久さん。

株式会社フレボファーム南アルプス農場

- 住所:山梨県南アルプス市鏡中條4193-3
- 電話:055-269-7935
- 設立:2011年3月
- 代表者:代表取締役社長 谷口 史彦
- 従業員:20名(パート社員含む)
- 事業内容:農産物の生産・加工・流通及び販売



第2章
the second chapter

未来は、 地域から。

未来が生まれるところは
最先端のところからではない。
未来が芽生え、生まれるところはいつも同じ。
それは、地域。
そう、可能性はいつも地域にあるからだ。





メーカー担当者の説明に熱心に耳を傾ける人がいる。子どもの明るい声が響く。新製品あり、季節の味覚あり、お楽しみあり、地元の名産あり。地方の水道工事店1社が開催している規模とは信じられない、なんとも盛大でにぎやかなイベント。それがジーシーアイの毎年開催している「感謝祭」だ。「展示会ではありません。感謝祭、地元の方々への感謝。メーカーへの感謝。我が社を育ててくれた方々に何かお礼ができないかと始めたのです。もう20年以上も前になります」と代表取締役の宮永さん言う。

宮永さんが地元とのつながりを何より大切に思うようになったのは長野オリンピックがきっかけだった。「国や行政が金の力で職人を集めたのです。みんなそっちへ行く。すると地元の工事や修理をする人がいなくなった。私たちは儲けよりも地元の仕事を選択しました。それが正解でした。オリンピック終了後はその仕事はなくなり、離れたものだから地元の仕事はとれなくなって、それで潰れた工事店もたくさんありました」

地元あつての自分たちと実感した宮永さん。だからこそジーシーアイは社員一丸となって地元への感謝をカタチにしていく。確かな仕事で、そして感謝祭で。特筆すべきは、感謝

祭の企画は社員だけで行うこと。毎年新しい企画でお迎えること。そして一度きりではなく、毎年、継続して開催していることだ。「我々が始めると他社も追従して開催し始めましたが、数年でやめました。大変さがわかったのでしょう。だからこそ我々は意地でも続けるのです。感謝の宴ですから、自分たちで知恵を絞ってね。イベントに関しては素人集団ですから、時間はかかるし段取りも悪い。それでもねばり強く実現へ向かう原動力は、やはり感謝。みなさんの喜ぶ顔が見たい。ただそのためだけに風の日も雪の日も働き、秋には感謝祭を開くのです」と宮永さんは笑顔で言った。



「感謝祭は、自分たちで何ができるのか、どこまでできるか、自分たちの可能性を試す場でもあるのです。ただ、自分たちの力だけでは成り立たないのも事実。製品の展示に関してはメーカーさんにも、渡辺パイプにもご協力を賜っています。ありがたいことです」と宮永さんは感謝を語る。

株式会社ジーシーアイ
代表取締役 宮永 知春さん

- 住所:長野県大町市平8040-92
- 電話:0261-22-3145
- 創業:1953年4月
- 資本金:1,000万円
- 代表者:代表取締役 宮永 知春
- 従業員:15名
- 事業内容:一級建築士事務所、建築工事、給水工事、給湯工事、排水(下水道)工事、土木工事、空調工事、電気工事、他



127

SEDIA SMILE STORY
株式会社ジーシーアイ

感謝祭が 原動力が

確かな仕事で
返すことは当たり前。
それ以上のおもてなしや
ふれあい
地元へ感謝したい。

128

SEDIA SMILE STORY
株式会社あるぺん村



日本で 人を呼ぶ。

閑散期に人を呼ぶ。
その命題にイチゴで応える。

あるぺん村は富山市内から「立山連峰」へ向かう途中にある。「立山連峰の素晴らしさはみなさんがご存じです。春から秋にかけては全国からお越しになります」と言うのはあるぺん村の大辻さん。立山町で生まれ、立山町をこよなく愛し、立山町の町長も務めた方だ。「でも課題はあります。冬場に人がきません。閑散期をなんとかしたいとずっと考えていました」

あるぺん村は観光客が休憩するドライブインからスタート。しかし今はその域を軽く超え、ヤギやポニーなどの動物とふれあえる牧場や地元の新

鮮な野菜を販売するコーナーも併設。地域を代表するレジャーランドに成長している。「ぜひとも冬の集客の目玉が欲しかった。そこでイチゴに目をつけたのです。子どもも大人も大好き。外国の方でも大丈夫。ハウスで栽培すれば冬場にも育つ。イチゴ狩りができる農園を作ろうと思ったのです」と大辻さん。幸いにもイチゴづくりの大家といわれる人とも知りあい、栽培技術を学ぶことができた。栽培担当者には立山町の人を採用。「町の雇用促進の一環にも役立てたい」と大辻さんは言う。「ハウスは渡辺パイプに相談して、雪と風に強

いものをお願いしました。2015年の年末にオープンし、年明けから本格的に稼働。このイチゴ農園で私がめざしたいのは、本当においしいイチゴを作ること。イチゴ農園があるだけで人が呼べるとは思っていません。富山一、いや、日本一おいしいイチゴを作ってこそ、人は訪れてくれるようになるのです。1、2年では無理だと思っています。しかし7年後には目標を叶えたい。日本一のイチゴが立山町にある。評判が広がれば冬にも人を呼ぶことができます。立山町のためにもぜひ実現したい」と大辻さんは意気込みを語った。



株式会社あるぺん村
代表取締役 大辻 進さん

「企画したときは小さなハウスを考えていたのですが、渡辺パイプからの提案もあり、強く広いハウスにしました。お客さまのことを考えると出入りが楽で、収穫しやすいハウスが一番ですからね」と大辻さんは満足そうに語る。

- 住所:富山県中新川郡立山町東中野新143-1
- 電話:076-483-2955 ■創業:1987年7月
- 代表者:代表取締役 大辻 進 ■栽培作物:イチゴ





入交電設は創業80年。3代にわたり山口市内の電設工事を請け負ってきた。その分、仕事も多岐にわたり、公共の仕事があり、建設会社からの仕事もあり、近所の方からの修理依頼もあるという。そして町の信号機の管理。「定期メンテナンスの他に、事故やアクシデントで信号機の電気が切れたら取り替えに行くのです。発見されてから40分以内で交換するという暗黙の了解があります。不思議なことに、信号機の電球はなぜか夜中に切れるのです。もちろん出勤します、真夜中でも雨の日でも」と代表取締役社長の入交さんは笑顔で言う。

入交電設の仕事へ向かう姿勢は明解だ。入交さんは言う。「当たり前前を当たり前以上に行くこと。そのために日々工夫を重ねること。知識の習得は大切だけれど、それで終わらせず、技術と経験をプラスして、知恵として現場で活かすこと。そんな仕事ができるはじめてお客さまは喜んでくだ

さるのです。その喜びが次の仕事につながります。そんな小さな努力の積み重ねが、豊かで快適な地域づくりにつながっていくと考えています」

入交さんは頻りに現場へ足を運ぶという。会社から車で40分ほどの現場へ同行させていただいた。管理担当者といっしょに現場のあちこちへ足を運ぶ。そしてコンクリートの地面に書かれた印を見て顔をほころばせた「この印が知恵です。空間のどこにどの機器が設置されるかを図面から読み取り、その機器が設置される場所を印しています。配線はその真上に持ってくれば間違いはなく、無駄も省かれる。確かな仕事とは、知識に技術と経験をプラスした、このような知恵の積み重ね。手前味噌ながら安心しましたよ」と入交さん。その言葉を聞いて、管理担当者の原田さんも、学校の先生にほめられた小学生のような笑顔を見せてくれた。



「大きな現場の工事でも、近所のお宅の電気修理も、規模の違いはあっても仕事に対する姿勢は同じです。確かな仕事でお客さまに喜んでいただくこと。時代は変わり、仕事の内容も変わりますが、当社の場合、この姿勢は不変です」

入交電設株式会社
代表取締役社長 入交 知則さん

- 住所:山口県山口市今井町4-5
- 電話:083-922-0388
- 創業:1936年4月
- 設立:1961年1月
- 代表者:代表取締役社長 入交 知則
- 従業員:23名
- 事業内容:電気工事設備



知識を、知恵に。

お客さまに喜んでもらう仕事を積み重ねる。
それが地域への貢献につながる。

130

SEDIA SMILE STORY

いりまじり でん せつ
入交電設株式会社



安全・安心こそ、 地域の財産。

第3章
the third chapter



流さない、こなさない、つながりを第一にする。
地域で仕事をする上で大切なこと。
だからその仕事はていねいで、慎重で、
何より安全と安心。だから笑顔は広がるんだ。

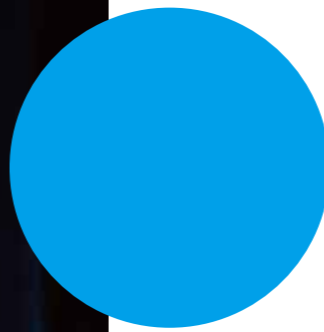
SEDIA
SMILE
BOOK vol.10

個々に 応える。

地域毎の細やかな違いに応えるだけでなく、その地域に必要な機能までも付加していく取り組み。

131

SEDIA SMILE STORY
前澤給装工業株式会社



One To Oneという取り組みがある。お客さまは規模も仕事も1社1社違うのだから、サービスもそれに応じて個別に対応するという、顧客満足を第一にした取り組みだ。理想ではあるけれど、実際に行うことはむずかしい。しかし世の中には地道に実践している企業もある。その1社が前澤給装工業だ。「当社はサドル付分水栓、バルブ類、継手類をメインに製造しています。それらの製品は使用場所の条件によって仕様が異なりますが、地域によっても異なります。接続ネジが違ったり、操作ハンドルの形や色が違ったりと、各地域の事業者によって異なる場合もあります。私たちの地域への取り組みの第一歩は、地域毎に異なる製品をきっちり作り込んでいくことです」と笑顔で語るのは前澤給装工業福島工場の製造部長の坂爪さんだ。

ビジネス的にいえば、少品種の大量生産の方が効率的だ。しかし前澤給装工業の取り組みはその真逆。しかもライフラインを支える製品だけに不良品は許されない。耐震性能などの機能性の向上も必要不可欠となっている。大半の企業が二の足を踏む状況でも期待に応える製品を生み出し、ビジネスを成り立たせている要因はどこにあるのだろうか？坂爪さんは言う。「鋳物の製造を自社で行える環境が大きいですね。製品の鍵となる金型製作とそれを使った製造の多様な生産ラインがあるから、細やかでスピーディーな対応ができます」

企業秘密なのでその金型の撮影はできなかったけれど、前澤給装工業にはサドル付分水栓だけで200を超える金型がある。すべての製品の金型となると数千にのぼるといふ。その数が前澤給装工業の実績ですねと問いかけると、「その数が私たちの地域への取り組みの証です」と坂爪さんは笑顔で付け加えた。



「地域毎のご要望にお応えするためには、地域の方々とのコミュニケーションは欠かせません。当社は全国に26ヵ所の営業所を設けています。地域の要望をきっちりリサーチして工場へバック。その連携が地域の期待に応える製品づくりに活かされています」

前澤給装工業株式会社
福島工場製造部長 坂爪 哲さん

- 住所:東京都目黒区鷹番2-14-4
- 電話:03-3716-1511
- 創業:1937年7月
- 資本金:33億5,890万円
- 代表者:代表取締役社長 山本 晴紀
- 従業員:396名
- 事業内容:サドル付分水栓、継手類、止水栓などバルブ類、メータセット、水道メータ、屋内配管ユニット、屋内配管用パイプ類、他の製造・販売



132

SEDIA SMILE STORY
株式会社ノーリツ

活躍できる場は必ずある。

障がいがあっても
イキイキと働ける
方法を考えていく。

「障がい者の概数は全国で778万人。人口の6%に相当するのですが、雇用者はたった13%。この現状を少しでも解消したかったのです」とエスコアハーツ代表取締役社長の竹中さんは設立の背景を語る。そこで給湯器のリサイクル事業に活路を見出した。「全国から回収した古い給湯器を分解・分別し、それらの素材を資源再生事業者に販売するのです。その作業に障がい者の方に活躍してもらっています。本業を通して、雇用の場をつくるということです」

現在、エスコアハーツには48名もの障がい者が働いている。「当初は部品の生産と印刷業務からスタートしましたが、今は給湯器の分解からパソコンのシステム構築などにも広がっています。できないと決めつけしないで、できる方法を考えていくと、一人ひとりが活躍できる場所はあるものです。だから私たち経営者の仕事は、受け入れる仕組みづくりと、働きがいのある職場づくり」と竹中さんは言う。

エスコアハーツは障がい者の就職がゴールではなく、自立へのスタートにしてほしいという願いがある。だからパートではなく社員として採用する。長期的に働くことができれば生活的にも自立のめどがたつ。最終的にはハッピーリタイアまで定着できる職場にしたいという。しかしエスコアハーツは福祉施設ではなく企業だと竹中さんはきっぱり言い切る。「仕事の質も求め、経済的価値もきちんと追求します。経済的価値をだせなければ企業として存続できません。私たちが存続できなければ障がい者の方の働く場がなくなります。だからこそ社員は一生懸命に自分の可能性を広げる。私たちは経済的価値と働きがいの両立をめざす。この考えは障がい者雇用に限りません。そうなんです。障がい者もひとりの社会の一員。活躍できる場は必ずあるのです」と竹中さんは素敵な笑顔で言った。



株式会社ノーリツ

■住所:兵庫県神戸市中央区江戸町93 ■電話:078-391-3361 ■設立:1951年3月 ■代表者:代表取締役社長 國井 総一郎
■従業員:3,042名(単体) ■事業内容:給湯機器・温水暖房システム・厨房機器・ガスコージェネレーション・燃料電池用貯湯タンク・ソーラーシステム・システムバス・システムキッチン・洗面化粧台・ガスファンヒーター、他の製造・販売



「企業である限り、経済的価値を求めるのは当然。社員にも確かな仕事を求めます。しかし障がい者の場合、できることとできないことの差が大きい。だから適材適所の配置が大切。本人のやる気と適切な業務の選択が成功のキーですね」

ノーリツ特例子会社
株式会社エスコアハーツ
代表取締役社長 竹中 昌之さん

■住所:兵庫県加古郡稲美町国安1123
■電話:079-492-6688
■設立:2006年1月
■代表者:代表取締役社長 竹中 昌之
■従業員:141名(内、障がい者48名)
■事業内容:給湯器の分解、分別、給湯器部品の製造、印刷、IT・システム業務、他



他人と違う
アプローチをするから
価値がでる。
ビジネスも農業も同じ。

天の邪鬼で いく。

133

SEDIA SMILE STORY

埼玉県本庄市鹿田さん

「2014年2月、関東甲信越は記録的な大雪で、私たちのグリーンハウス16棟が全滅しました」と言うのは鹿田さん。主にきゅうりを栽培している農家だ。被害を受けた農家のなかには、これを機に廃業したところも多い。しかし鹿田さんは違う。「親子2代にわたっての農家。だから農業を続ける道を模索しました」

次に建てるグリーンハウスの選択は、経済性ではなく、万が一の災害への強さで選ぶと決めた。しかしお金は無限ではない。グリーンハウスも需要過多ですぐに建てることはできない。渡辺パイプに相談して鉄骨のグリーンハウスが完成するまで1年半の月日を必要とした。「その間も食べていかなければなりません。その間は近隣の農家さんから使っていない畑を借りてなんでも栽培しました。グリーンハウスさえ建てば利益を出す自信はありましたから」と鹿田さんは笑う。

現在、鹿田さんのところには従業員が3名、そして海外からの研修生が2名もいる。そして鹿田さんの言う通り、グリーンハウスが建ってからは順調に展開している。「秘訣ですか？ 他人と違うアプローチをすることです。たとえばここで栽培しているきゅうり。普通は10月が一番の収穫期なんですが、私のところでは作型を変えて出荷のピークをずらしています。みんなが出荷しないとき、品薄になったときに出荷するんです。ちょっとした工夫をするだけで価値があがるんです。人と同じことをしない、それが我が家の伝統ですかね」と鹿田さんは笑う。やる気と考える力。ビジネスに限らず農業でも、成功する秘訣はそんなところにあると実感した。



鹿田 英也さん

「海外からの研修生は積極的に採用しています。現在は中国から1名、カンボジアから1名。この本庄市で学んだ栽培技術を中心に、その国にあった方法をアレンジして広げてもらえたらと願っています」と鹿田さんは言う。

- 住所:埼玉県本庄市新井79-1
- 創業:1979年
- 従業員:5名(海外研修生含む)
- 栽培作物:きゅうり

134

SEDIA SMILE STORY
株式会社ブリヂストン

隠す理由は 何もない。

共存とは
共に存在するだけでは
成り立たない。
交流があってこそ、
真の共存といえる。



高圧ホースやポリブテン管やワンタッチ継手といった、ブリヂストンの製品は、暮らしと産業のいたるところで使用されている。「適材適所という言葉があります。製造にもその人が適している作業と適していない作業があります。私どもの工場に女性が多いのはそんな理由から。製品を作り込んでいく過程で細やかな作業を要求されるので、それは男性より女性の方が適しているからです」と代表取締役社長の高野さんは教えてくれる。

ホースにしろ、継手にしろ、ブリヂストンの製品は何かと何かをつなぐ役目を果たしている。「私たちは製品をつなぐ役目から、さらに広げてニーズと発想、技術と品質、人と信頼など、あらゆる要素をつなぐ製品を開発して市場へ提供することで社会へ貢献することをめざしています」と高野さん。

もちろんその活動のなかには地域とのつながりも含まれている。清掃活動、市の催しであるスタンプラリーへの参加、クリスマスのイルミネーションなど、ブリヂストンはさまざまな取り組みを行っている。なかでも一番のイベントは秋祭りだろう。年に一度、近隣の家族を工場内に招いてさまざまな催しでもてなすイベントがある。開催にあたっては社内で実行委員会を立ち上げて企画を進めるという本格的なもの。社内バンドのコンサートあり、抽選会あり、市民参加の余興あり。当日は市長も駆けつけるという、秋の休日の一大イベントに成長している。「私たちは開かれた工場をめざしています。隠すものが何もない。むしろ隔々まで私たちの取り組みを見ていただきたい。だから地元の人との交流をととても大切にするのです。秋祭りもまだまだ盛り上げていかなければなりません。工場が地域のお荷物ではなく、本当に地域の財産となるように、地域と人とのつながりを密にしていきます」と高野さんは力強く語った。

株式会社ブリヂストン

- 住所:東京都中央区京橋3-1-1 ■電話:03-6836-3001 ■設立:1931年3月1日
- 資本金:1,263億5,400万円(2014年12月31日現在) ■代表者:代表取締役CEO 兼 取締役会長 津谷 正明
- 従業員:14,248名(2014年12月31日現在) ■事業内容:乗用車用、トラック/バス用、建設・鉱山車両用、産業車両用、農業機械用、航空機用のタイヤ、樹脂配管部材、他



「工場の存続は地域あってこそ。だからこそ水質、土壌汚染、騒音管理など環境維持改善につとめるのは当たり前。ゴミ拾い運動、近隣のみなさまを招いた秋祭り、クリスマスの飾り付けなど、地域との交流をもっと活発化させたいですね」

ブリヂストンフローテック株式会社
代表取締役社長 高野 伸和さん

- 住所:埼玉県加須市南篠崎1-3-1
- 電話:0480-65-1121
- 設立:1965年5月18日
- 資本金:4億8,400万円
- 代表者:代表取締役社長 高野 伸和
- 事業内容:高圧ホース、ワンタッチ金具、付属製品及び樹脂チューブ、樹脂配管用継手、他

SEDIA CSR STORY

かけがえのない
パートナーとして。

お客さま、お取引先さま、そして地域の方々。
すべての人を笑顔にする。
それが渡辺パイプの社会的責任です。

渡辺パイプは水と住まいと農業の領域で、健やかな生活インフラの整備に必要な商品を
ワンストップでお届けするだけでなく、お客さまやメーカーさまの課題に応える仕組みやサービスや
ソリューションを開発しています。それは生活インフラの向上こそが、渡辺パイプが
提案する元気で快適な生環境を作り出していくと信じているからです。

これからも渡辺パイプを取り巻くすべての人へ、企業へ、地域へ、さまざまな施策やサービスをお届けしていきます。
業界を代表する企業の社会的責任を果たしていくために。
それこそが渡辺パイプのCSRの取り組みだと考えています。



お客さまと共に。

お客さま、仕入先さま、そしてサービスセンターを結ぶ、業界No.1の流通ネットワークを整備し、水と住まいと農業の川上から川下まで、必要な商品がすべて揃う資材のワンストップ化を実現。渡辺パイプに連絡すれば必要な商品が必要なときに届くという安心を添えて、お客さまを全面的にバックアップしています。



お取引先さまと共に。

いまや3,000社を超える仕入先さま、協力企業さまとのネットワークを結ぶ渡辺パイプ。私たちはお取引先さまにも信頼される誠実な企業であり続けたいと日々取り組んでいます。公正な取引を心がけ、企業としてのコンプライアンス(法令遵守)はもちろん、より良いサービスのために仕入先さまとの情報ネットワークも整備しています。



地域と共に。

標高2,000mの高峰高原で多様な自然体験プログラムを提供する「浅間山麓国際自然学校」など、渡辺パイプは生物多様性の環境保全をめざし、人が自然の中でさまざまなことを学んでいく機会を提供しています。さらに施設を運営していくことで、地元産業の活性化と地域社会の発展に貢献しています。



セディアグループと共に。

企業は人なり。それは永遠の真理だと渡辺パイプは考えています。現場のコンプライアンス(法令遵守)を高め、社員の自主性と多様性を尊重する人事制度を取り入れ、教育研修を行い、全国に広がる渡辺パイプやグループ会社の社員一人ひとりの知恵やチカラをグループパワーに結実できる職場環境づくりに努めています。

とぎれてしまったら、
まっさきに駆けつけて、
つなげる。



鬼怒川決壊の翌日から活動を開始。それも渡辺パイプのCSR活動です。

2015年9月、台風18号の通過にともない、北関東を中心に記録的な大雨が降りました。1級河川・鬼怒川では堤防が決壊し、常総市は大きな被害に見舞われました。その地域には渡辺パイプの下妻サービスセンターがあります。幸いにも被害はありませんでしたが、お客さまのなかには決壊による被害に見舞われた方がたくさんいらっしゃいました。下妻サービスセンターでは本社や近隣のサービスセンターと連絡して支援物資を調達。災害の翌日から、所長とSEは2トラックにセディアウォーターやウェットティッシュなどを積み込んで、避難所などへ向かいました。復旧

作業に従事することはもちろんですが、その前に地域をまわり、できる限りの援助をするのは、東日本大震災のときにも行った渡辺パイプのCSR活動のひとつです。そしてその後、すみやかに復旧工事が行えるように商品を準備して、工事に備えました。渡辺パイプの事業フィールドである水はライフラインの要。本当はとぎれてはいけないものです。しかし災害などで傷付いてしまったら、少しでも早くつなげる。まっさきに駆けつけてつなげる。それがライフラインに従事する渡辺パイプの任務であり、誇りでもあるのです。





SEDIA SMILE BOOK vol.10

かけがえのないものをつなぐ仕事、続く。
日本の笑顔、広がる。

ライフラインは、暮らしに直結するかけがえのないもの。

だからこそ大切。だからこそ必要。

真摯に、ひたむきに取り組むに値する仕事です。

水道やガスや電気が当たり前のようにつながる暮らしのなかには、

つい忘れられがちですが、そんな方々のきちんとした仕事があるからこそ、

家庭には温かな団らんという笑顔が広がるのです。

「スマイルブック」ではこれからもライフラインに従事する人々の仕事を紹介していきます。

かけがえのないものをつなぐ仕事、

それは日本の家族の笑顔を広げる仕事でもあるのだから。

社名 渡辺パイプ株式会社
 本社 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10
 浜離宮パークサイドプレイス6F
 創業 1953年12月8日
 代表者 代表取締役社長 渡辺 元
 資本金 81億2万4,000円
 年商 2,510億円(グループ売上:2016年3月期予定)
 従業員数 4,230名(グループ全体:2016年4月1日現在)
 業務内容 【管工機材の販売】
 水道機材、衛生器具、給排水金具、配管材料、他
 【住宅設備機器の販売】
 空調機器、浄化槽、厨房機器、給湯機器、建材、他
 【電設資材の販売】
 電気工事材料、電線、照明器具、家庭電化品、他
 【温室の設計・施工、販売】
 各種温室の設計・施工、各種グリーンハウス及び部品・資材、
 各種被覆資材、灌水装置、自動カーテン装置、天窓・側窓開閉装置、
 冷暖房装置、温室環境制御装置、養液栽培システム、他

グループ会社

| | |
|----------------|--|
| 渡辺パイプ・西日本 株式会社 | 株式会社 WATER WORKS |
| 渡辺パイプ・沖縄 株式会社 | 株式会社 ワーク・サポート |
| 株式会社 ツギテの三共 | パイプシステム工業 株式会社 |
| キザイ産業 株式会社 | 株式会社 セディアトランスポート |
| 梅津管材 株式会社 | 株式会社 ききくらぶ |
| 東北鋼管株式会社 | |
| 昭栄商事 株式会社 | 株式会社 エドビ |
| 三幸機器 株式会社 | 協伸 株式会社 |
| 株式会社 資材社 | 西日本グリーン販売 株式会社 |
| ヤナギ管材 株式会社 | Watanabe Pipe Vietnam Co., Ltd. (WPVN) |
| 辻清商事 株式会社 | |
| 株式会社 ケンバン | げんきビジネスサポート 株式会社 |
| 平和テクノ 株式会社 | 株式会社 セディアピーエス |
| 三興電材 株式会社 | 株式会社 アサマリノート |
| 明興電機 株式会社 | NPO法人 浅間山麓国際自然学校 |
| 株式会社 大成商会 | 公益財団法人 セディア財団 |